

いきいき 行田人

笑顔も実る観光農業を

長谷川 裕晃さん（30歳・和田）

28歳で一念発起し、後継者不足が深刻な社会問題となっている農業の世界に飛び込んだ長谷川さん。しかし、米・麦作とイチゴの栽培をしていた祖父を手伝い、その大変さをよくわかってきた長谷川さんにとって、もともと農業は「絶対にやりたくない」仕事でした。高校と専門学校で自動車の整備資格を取得し、メカニックとして自動車整備工場で働き、これまで培った技術を元に独立も考えていました。不況のあおりを受けている自動車業界で仕事を続けることに不安を感じていました。「新しいことにチャレンジしたいと思って、いた私の脳裏に浮かんだのは、祖父の手伝いでイチゴを出荷するため市内の農産物直売所へ行った際に、イチゴを買いたい求めているお客さんの笑顔でした」多くの人を笑顔にするパワーを秘めたイチゴの栽培に期待と希望を抱



き、家族や友達の反対を押し切り自動車整備工場を退職した長谷川さんは、知人から願書提出期限が3日後に迫った埼玉県農業大学校を紹介され、すぐに入学を決意しました。

生産技術から経営学まで、就農に関する幅広い知識を学んだ長谷川さんは、卒業と同時にイチゴ栽培と摘み取りができる直売所をオープンさせました。「直売所は、子どもや車いすの方でも楽に摘み取りができるよう、バリアフリーの高設栽培を市内で初めて取り入れました。これまでの農業のイメージを一新し、消費者と生産者の顔が見える関係を築き、開かれた農家を目指すことで、農業はどんどん発展していくはず」と農業大学校で得た大きな財産を糧に先駆的な取り組みを行う長谷川さんは、1月に加須地区青年農業者研究会でこれまでの独自の農業経営事例などを発表し最優秀賞に輝くなど、市内外から高い評価を受け注目を集めています。

長谷川さんにとって直売所の立ち上げは、就農を決めた際に思い描いた構想の第一段階。「今後は規模を拡大し、いずれは新たな収穫物の生産などもやっていきたい。農業・商業・観光業を結びつけた観光農業を目指し、開拓されていない農業の新しい形を生み出していきたい」と将来の展望を語る長谷川さんが愛情を込めて手掛けたイチゴは、これからも多くの笑顔を実らせそうです。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日まではがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

忍 伊藤 英子

初春や米寿迎へし兄の声

中央 藤野 芳江

元日や雀の囀り晴れやかに

谷郷 斉藤 勲

色々な虎の跳び出る賀状かな

谷郷 大谷 峯生

初日の出離れ住む子の彼方より

荒木 秋山 二郎

勝名乗り謡のみだれし初土俵

須加 栗原かね代

極上の日差したまはり初詣

須加 藤野 治男

初富士や村の鳥居の真止面

下中条 梶原 銃司

利根水路初日を拝む鳥の列

棚田町 財津ミチ工

霊山に暮を下るせる雪しぐれ

持田 太田 保夫

北風の届かぬ露地のフライ旗

下忍 島崎 もと

着ぶくれて大夕焼に紛れ込む

忍 岡田 修

ひとしきり風花あそぶ裸婦の像

前谷 町田 貞子

窓越しに明けの寒月震えてる

持田 田子 敏枝

紅梅に幼子が頼寄せている

持田 伊藤 洋子

湯の宿の氷柱は長し部屋ごもる

(木島 斗川 監修)



『フクロウ』(手芸)
山田 トミ江 (谷郷)